愛隣幼稚園
園だより
11．10月号

『どの子も我が子』

１０月になります。運動会です！
ばら組やたんぽぽ組の子どもたちは楽しそうに玉入れや、つなとりをしています。初めてのワクワク感、去年を思い出しての期待感が大半の子どもたちを笑顔にしています。ひかり組のリレーも３回目の練習をしました。Mちゃんもドキドキの涙をグッとこらえて頑張っています。アクシデントに弱いRくん、カーブで滑りましたが投げださずにバトンを繋ぎました。少しずつどの顔も真剣になってきました。私たちは週末、野外劇のストーリー作りをしました。そろそろお家の方との練習も始まります。幼稚園中が少しずつ少しずつ熱を帯びてきています。子どもたちだけでなく、私たちもお家の方もみんなで力を出して楽しんで盛り上がる「運動会」の１日を過ごしたいと思います。

私は、娘たちが愛隣にお世話になって初めて親として子どもの運動会に参加しました。これを読む多くの親御さんがそうであるように。その最初の感想は「あ～楽しかったぁ！！」でした。それは子も親も夢中になるという運動会でした。自分の運動会ならドキドキして必死で、夢中になるのも当り前ですが、親になって参加する運動会がこんなに楽しいとは、意外でした。どの競技も楽しい、おもしろい。入り込んで見てしまうのです。親の種目だってかなり本気。熱くなったりするもんかと平静を装っても、いつの間にか大人が本気になっています。（たかが子どもの運動会、されど子どもの運動会です。）リレーに至っては自分の子どもが走っていなくても感動して泣けてしまいます。これは何も私に限った事ではなく、昨年も一昨年もそんな親御さんの姿をたくさん見ました。そして午後の野外劇もフィナーレの頃には子どもたちだけでなく、大人たちまでもがみんな笑顔になっています。傍観者でなくすっかりこの運動会の参加者(当事者?!)のひとりになっているのです。

どうしてこんなに楽しいのかなぁ・・・それは愛隣の日々の生活がこの日に集まるたくさんの人たちを繋いでいるからかもしれません。バスではなく手を繋いでの送り迎え。お天気が悪かったり、自分や他の兄弟の具合が悪い日にはバスがあったらと思います。それでも毎日お願いしている送り迎えです。その道で一緒になる同じ組の〇〇ちゃん。園庭で今日も見かける小さい組の〇〇くん。春は泣いていた子がお母さんの手を離して今日は笑顔で駆けていきます。大変な送り迎えです。でもそれがあるから、運動会で目の前に立っているこの子は見知らぬあの子のではないのです。リレーの時、転んでもまた必死の形相できりっと前を見据えて走り出すこの子の姿に、親でない自分もまた、成長を共に喜び涙溢れてしまうのです。『どの子も我が子』そう感じて参加する愛隣の運動会だからこんなに楽しいのかもしれません。

どの幼稚園にも歴史がありそこにはその幼稚園にしかない文化が育まれていきます。長い人生のほんの一瞬をそこで過ごす子どもたちと親御さんたちがその文化を継承していきます。『どの子も我が子』と感じる愛隣の文化を、私たちは今年もまた運動会に集う大人たちが良いものと実感して次の大人たちに繋いでいきましょう。

さあ、当日はファインダー越しに我が子の姿ばかりを切り撮るのはやめにしましょう。もったいないからです。子どもたちは繋がっています。その中で我が子が、あの子が見せてくれる様々な姿を見逃してはもったいない。幼稚園中の皆が共有しているものは切り取った場面では共有できないからです。大人も心に刻んでほしいのです。たった一度のシャッターチャンス！　さらにもう一つ、カメラを置いて拍手をお願いします。たくさんの大きな拍手と声援をお願いします。子どもたちを励まし支える大人たちがこんなにたくさんいるのだと伝えたいのです。子どもたちの「やったね！」の笑顔を皆で分かち合いたいのです。